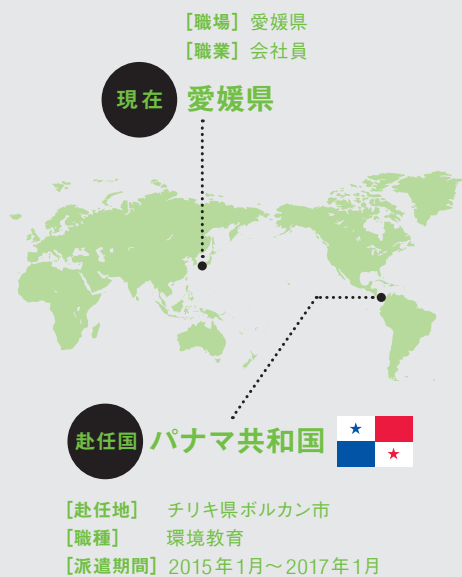




大好きな愛媛で、「楽しい」を事業に

松下 博幸さん 株式会社MIYAMA caminar 代表
Hiroyuki Matsushita

地域おこし協力隊として赴任した土地に、新たな人の流れを生み出してきた松下博幸さん。
活動終了後もそのまま定住し、地域の価値をさらに広げていく。

松下さんの現在地

趣味を地域の力に変える挑戦

四国最大級のスキー場「ソルファ・オダ」を拠点に、自然を生かした誘客事業の企画や、紅葉の名所として知られる「小田深山溪谷」の観光振興、養魚場の作業支援などに取り組む松下さん。小さい頃から自然が好きで、趣味であるスノーボードや川遊び、釣り、キャンプなどを地域活性化の企画に結びつけることで、活動の幅を広げてきた。

冬はスノーボードのインストラクター資格を活かして子どもたちに指導する傍ら、運営面でも手腕を発揮している。その象徴的なエピソードが、四国初となる子供向け「スノースライダー」の導入だ。人手不足で営業活動まで手が回らないスキー場に代わり、松下さんは

自ら松山市内のプロショップへ足を運んだ。そこで大手スポーツ用品店の担当者と信頼関係を築き、「雪の上で足蹴り自転車を楽しめるギアを導入できないか」と提案。これがファミリー層の集客に繋がり、スキー場の新たな魅力として定着している。

夏と秋には趣味の車のネットワークを活かし、スキー場の駐車場を利用した「ノスタルジックカーとスポーツカーの



配属先の小学校での環境教育授業の一コマ

ミーティング」を主催。このイベントには、各地から多くの車好きが集まり、キッチンカーの出店などを通じて地域に新たな賑わいを生み出している。

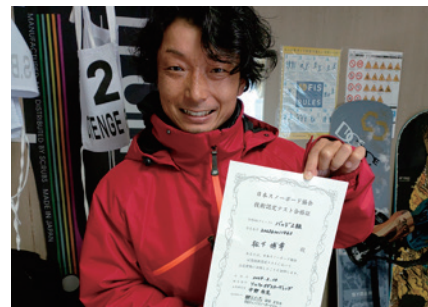
「自分が楽しいと思えることを仕事にできて、それをたくさんの人に伝えて地域が盛り上がっていく。ここにやりがいを感じます」と語る松下さんだが、その活動は華やかなイベントだけではない。地元の「アマゴの養魚場」が深刻な人手不足に陥っていることを知ると、自ら作業の支援に飛び込んだ。「最初は自分に何ができるかわかりませんでしたが、まずは現場に入り、地域の方と一緒に汗を流すことから始めました。地域の困りごとに寄り添う中で、自分たちが守るべき資源の価値を再確認できたんです」こうした日々の積み重ねが、地域住民との深い信頼関係を築く土台となっている。



配属先校では授業だけでなく様々な環境保護活動を支援した



小田深山渓谷での清掃活動



スノーボードの上級資格パッジテスト2級(JSBA公認)を持つ

JOCV時代

パナマで培った「動く」姿勢と 愛媛への想い

かつてJICA海外協力隊(JOCV)でパナマに派遣され、スペイン語を使いながら子どもたちへの環境教育に携わった松下さん。日本を離れ、外の世界を見たことで、あらためて地元・愛媛の暮らしやすさや、その価値を実感したという。

松下さんのキャリア観は明確だ。

「日本で働くなら愛媛で。愛媛を出るなら東京ではなく海外へ」

そんな強い意志を持ち、オーストラリアでのワーキングホリデーやパナマでのJOCV経験を経て、現在は大好きな地元・愛媛で、自分の「好き」をどう形にしていかに力を注いでいる。

パナマでは、言葉の壁を越えて現地の人々と協力し合う難しさや楽しさを知り、限られたリソースの中でプロジェクトを形にしていくことを学んだ。現在の地域おこし協力隊の活動においても、その経験が活かされていて、自由度の

高いミッションの中で、自ら仕事を作り出す力につながっているそうだ。

未来へのビジョン

起業後に描くネイチャーガイドの可能性

2026年3月末に地域おこし協力隊の任期を終えた松下さんは、その後も内子町に残り、自身の会社「株式会社MIYAMA caminar(ミヤマ・カミナル)」を設立することを決めた。カミナルとはスペイン語で「歩く」を意味し、小田深山を歩く、という思いが込められている。

事業の柱は「ネイチャーガイド」で、特にインバウンド客をターゲットに見据えている。海外経験で培った英語とスペイン語を武器に、内子町に宿泊する外国人観光客に対し、送迎付きの渓谷ツアーなどを提供する計画だ。今後は地域おこし協力隊という「公」の立場から離れ、一人の経営者として収益性を確保しながら、地域の資源をビジネスとして継続させていくことを目指す。

もちろん、これまで手がけてきた車

松下博幸さん プロフィール

愛媛県出身。JOCVから帰国後、企業勤務を経て、愛媛県内子町の地域おこし協力隊として活動。自然への探究心と趣味のスノーボードや車といった自身の「好き」を原動力に、小田深山地区の魅力を引き出す事業に取り組んだ。2026年3月に株式会社MIYAMA caminarを立ち上げ、同地区を案内するネイチャーガイドとして独立。

のイベントの民間移行や、小田深山のオリジナル手ぬぐいなどの商品開発・販売も継続していく予定だ。

「好きなことで生きていく」——松下さんの強みは、その人懐っこさと、一度引き受けたことは「中途半端にしたくない」という強い責任感にある。「まずはやってみる」と地域に飛び込み、汗を流してきた。そんな飾らない姿があるからこそ、今では地域の人々から「松下くん、これやってくれる?」と頼りにされる存在になった。地域に深く根を張り、人々と共に歩もうとする松下さんの挑戦は今、内子町の未来を支える太い柱になろうとしている。

松下さんへの エール!

やまなみん実行委員会
代表

佐野晋平さん



純粋な心で相手と向かい合い、精一杯の愛情を注ぐ

相手が人であれ、山であれ、海であれ、川であれ、鳥であれ、カエルであれ、草花であれ、車であれ、彼にとっては等しい。松下博幸とはとても柔軟で愛情深い人間である。

彼のこの柔軟で深い愛情によってバラバラに散らばった点と点は結ばれ、ワクワク胸躍る事態が立ち上がる現場を私は何度も目撃してきた。そこは偶然も必然も交差になった、ただただ魅力的な現場である。これから彼の行く先々では、そんな魅力的な現場で溢れるにちがいない。願わくは私としては、その現場にひとつでもふたつでも居合わせたい。今後も彼の歩みからは目が離せない。